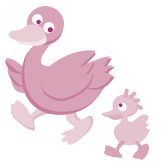
愛すること



「愛すること」の第一歩は、何から始まるのでしょうか？

子ども達を野原へ連れて行くと、右へ左へ走り回り、さまざまな活動をします。その活動の中から、野草や昆虫など「かわいらしいな」とか「不思議だな」と思うものを見つけると、

「これ何という花？」

「どういう名前の虫？」

というように、それらの名前をたずねてきます。つまり、愛することの第一歩は、名前を知ることから始まるのです。そういえば、学校でも子ども達から愛されているウサギには、「クローバー」とか「マーブル」などの、かわいらしい愛称がついています。

では、「愛する」ことの反対は何でしょうか。憎むことでしょうか？嫌うことでしょうか？恨むことでしょうか？それとも避けることでしょうか？

「愛する」ことの反対は「無視する」ことだと教えてくれたのはマザーテレサです。私たちは忙しさのせいにして、子どもを「無視」していることはないでしょうか。

「お母さん、この本、読んで」とか、

「お父さん、このゲーム一緒にやろうよ」

と、お子さんが頼んだときに、どう答えてみえるでしょうか。

「忙しいからあとでね」

「今度、ひまなときに遊んであげるから、今日はだめ」

「この仕事が終わったら相手をしてあげるから、待っていてね」

こう答えても、きっと、子ども達は（今日は、遊べないんだな）と直感することでしょう。

ある校長先生が休み時間に職員室で仕事をしている先生がたを見て、

「どうして子どもと一緒に遊ばないのですか？」

と聞かれた時、ある先生が

「子どもと遊びたいけれど、仕事が忙しいので、遊べないんですよ」

と答えました。それに対して校長先生は

「教師の第一番目の仕事は、子どもと一緒に遊ぶことじゃないのですか」と言われたそうです。

忙しいという字は心を亡くすと書きます。私たちは「忙しい」ことを理由に、子どもたちの「願い」や「さそい」を無視していることはないでしょうか。「無視」は「愛」の反対の行為であることを胸に刻みたいものです。

笠松小学校
校長　加藤　卓

ウサギの世話をする児童

水害に備えて水防演習

木曽川右岸地帯水防事務組合

木曽川右岸地帯水防事務組合（管理者広江正明笠松町長）主催の水防連合演習が五月二十日笠松競馬場三角駐車場で行われました。

この連合演習の目的は、これからの出水期に備え、団員の士気の高揚と洪水即応の作業能力の向上を図り、水防体制を強化するとともに、一般の水防に理解と協力を求めることです。

団員は笠松町をはじめ岐阜市、関市、各務原市、岐南町の十五水防団　三百八十人が参加。梅雨前線と台風の影響で木曽川上流部は三百ミリから五百ミリの雨量で氾濫警戒情報第一号が発表され、警戒水位を上回るとの想定で「猪の子工」「木流し工」など十三工法を本番さながらに行いました。

また、長年水防団活動に貢献された次のかたに表彰の伝達と授与がありました。

当町関係分　（敬称略）

▽岐阜県知事表彰（伝達）

【特別勤続功労賞】

田島義久、船橋義明

【紫功労賞】

谷口勝三、武仲健一

【紅功労賞】

田島道弘

▽管理者表彰

【功労章】

小池常雄、水谷秀稔
足立正一、磯部雅一

【勤続章一号】

岩崎　正、丹羽芳男
小沢　茂、松原明雄
奥田清保、社本和己
中村正博

【勤続章二号】

森　茂信、岩田　勲
鳥井一史、堀場栄嗣
佐々木道弘、杉山義久

猪の子工を行う水防団員